

B校B教諭 7月の実践



- ・単元名 「一番心に残っている本について、紹介しよう」(伝国・読)
- ・教材名 「私と本」(光村図書 6年)
- ・身に付ける力 … これまでの本との関わりを振り返り、今後の読書の幅を広げること。

《本単元の大まかな流れ》(全5時間)

- 第一次：教師の読書体験を知り、読書のよさや自身の読書体験を振り返る。
学習計画を知る。
- 第二次：読書紹介カードに書く内容や書き方について考える。
一番心に残っている本を選び、図書室に掲示するための読書紹介カードを書く。
- 第三次：読書紹介カードを友達と見せ合うことで、多様なジャンルの本への関心を高める。
学習を振り返る。

本単元における授業改善の流れ

授業改善の観点	児童の実態把握	教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	本単元で取り入れる手立ての選択	取り入れた手立ての有効性の検討 (○：成果、●：課題)	本単元での児童の姿	次の単元に向けた手立ての検討 ※課題(●)の改善策となる手立て等
単元前						
A 見通す	①	単元の学習計画に沿って、身に付ける力を意識しながら、本時や単元のゴールを見通している。	<p>e 児童の身近な話題や興味を踏まえて言語活動を設定することで、意欲を喚起する。</p> <p>g 児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでのプロセスのイメージをつかめるようにする。</p>	<p>○教師の読書体験を具体的に紹介することで、児童の興味や意欲を喚起することができた。</p> <p>○読書紹介カードの内容や掲示方法について、児童と一緒に考えながら学習計画を立てたことで、児童はゴールまでの大まかなプロセスを把握することができた。</p> <p>●実際の読書紹介カードは、どのような内容について、どのような書きぶりで書くのかという具体的なイメージをつかませることができていなかった。</p>	② ステップUP	<p>h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。</p>
B 自ら考える	①	自ら問いを立て、何をどのようにしたら解決できるか考えている。	<p>l 学習する内容や相手等について、児童が自ら決めたり選んだりする場を設けることで、積極性につなげる。</p>	<p>○昨年度の6年生が行った言語活動の例を挙げながら、誰に向けてどのような本を紹介したいかを児童に決定させたことで、読書紹介カードを書く際の視点を積極的に考える姿が見られた。</p> <p>●多様な意見が児童から出されたが、集約するのが難しかった。</p>	② ステップUP	<p>m 児童が考えを整理したり、書き出したりする時間を確保することで、自分の考えをもてるようにする。</p>
C 対話する	①	感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付いている。	<p>p' 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。</p>	<p>○何のために何について話し合うのかを児童が理解していたため、ペアで活発に意見を交流することができていた。</p> <p>●グループでの対話や全体交流の際は、考えの深まりや広がりが見られなかった。自分の考えとの共通点や相違点に気付けるような教師のコーディネートが必要であった。</p>	①	<p>p 目的に応じて対話の形態を使い分けることで、考えの広がりや深まりを促す。</p> <p>m' もち寄った互いの考えを比較させることで、共通点や相違点に気付けるようにする。</p>
D 振り返る	①	できるようになったことや分かったことについて、理由や根拠を挙げながら、振り返っている。	<p>★ 本時の終わりに視点を与えた上で振り返りを記述させることで、次時の学習へ見直しをもてるようにする。</p>	<p>●学習の振り返りを、数名の児童による口頭での発表にとどめたため、全児童が自分自身の学びを振り返ることはできていなかった。</p>	①	<p>s キーワード(指導事項等)を用いて学習をまとめることで、学びを確かなものにする。</p> <p>t 学習の前後で、どこがどのように変わったのかを比較させることで、変容を自覚できるようにする。</p>
単元後						

※「★」(振り返り)は、どの単元においても毎時取り入れていただきたい手立てとして、「手立て一覧表」に示しています。

B校B教諭 9月の実践



- ・ 単元名 「わたしたちの町のよさを伝える新聞を作ろう」(書)
- ・ 教材名 「ようこそ私たちの町へ」(光村図書 6年)
- ・ 身に付ける力 … 引用したり、写真や図を用いたりして、伝えたいことが明確になるように書くこと。

《本単元の大まかな流れ》(全 12 時間)

第一次：教師によるモデルを基に学習のゴールを見通し、学習計画を立てる。
 第二次：モデルを基に、新聞のよりよい書き方や内容について考える。
 新聞の材料を収集し、実際に書く。
 第三次：友達と新聞を読み合い、互いのよさを伝え合う。
 学習を振り返る。

本単元における授業改善の流れ

授業改善の観点	児童の実態把握	教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	本単元で取り入れる手立ての選択	取り入れた手立ての有効性の検討 (○：成果、●：課題)	本単元での児童の姿	次の単元に向けた手立ての検討 ※課題(●)の改善策となる手立て等
単元前						
A 見通す	②	単元の学習計画に沿って、身に付ける力を意識しながら、本時や単元のゴールを見通している。	<p>h 児童が行う(作成する)言語活動のモデルを教師が示すことで、児童の「ああなりたい」「こうしたい」という願いや思いを引き出す。</p> <p>h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。</p>	<p>○児童が作成する新聞のモデルを教師が示したことで、学習のゴールが明確になった。</p> <p>○新聞に書く内容や書き方を児童が理解した上で活動を進めることができた。</p> <p>●新聞のモデルを取り上げる際に、身に付ける力を明確にすることができていなかった。</p>	②	j 到達基準を提示することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。
B 自ら考える	②	問いのよりよい解決に向けて、考えや方法を修正したり、応用したりしている。	<p>h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。</p>	<p>○単元のゴールに向けて、何をどのような手順で学習を進めるのかを学習課題で示したことにより、進んで学習する姿が見られた。</p> <p>●課題を解決するための方策について、修正したり応用したりすることはできていなかった。提示するモデルの内容を吟味した上で、再度この手立てを取り入れたい。</p>	②	h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。
C 対話する	①	感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付いている。	<p>p 目的に応じて対話の形態を使い分けることで、考えの広がりや深まりを促す。</p>	<p>○ペア対話の場を設定することで、自分の新聞と比較しながら、友達の新聞の良いところやアドバイスのについて伝え合うことができた。</p>	②	p' 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。
D 振り返る	①	できるようになったことや分かったことについて、理由や根拠を挙げながら、振り返っている。	<p>s キーワード(指導事項等)を用いて学習をまとめることで、学びを確かなものにする。</p>	<p>○めあてや見通しの際、指導事項に当たる言葉を意識して、まとめや振り返りを書いたり話したりすることができるようになった。</p>	②	j' 到達基準を基に学習を振り返らせることで、自分の学びを実感できるようにする。
単元後						

B校B教諭 11月の実践（公開授業）



- ・ 単元名 「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」（書）
- ・ 教材名 「未来がよりよくあるために」（光村図書 6年）
- ・ 身に付ける力
 - … 文章全体の構成の効果を考え、事実と意見を区別しながら説得力のある意見文を書くこと。
 - … 自分の意見と比べながら聞き、考えを深めること。

《本単元の大まかな流れ》（全 11 時間）

第一次：教師によるモデルを基に学習のゴールを見通し、学習計画を立てる。
 第二次：よりよい未来についてテーマを決定し、情報を収集する。
 意見交流で考えを深め、意見文を書く。
 第三次：書いた意見文を読み合い、よさを伝え合う。
 学習を振り返る。

本単元における授業改善の流れ

授業改善の観点	児童の実態把握	教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	本単元で取り入れる手立ての選択	取り入れた手立ての有効性の検討 (○：成果、●：課題)	児童の姿 本単元での	次の単元に向けた手立ての検討 ※課題(●)の改善策となる手立て等
単元前			d 当該単元に関わる 基礎的知識や語彙、関連する話題について事前に児童へさりげなく提供 することで、レディネスを調整する。	○学級文庫に現在の社会や自然環境についての本を並べたことで、単元の学習に入る前に意見文のテーマへの関心を高める児童が多くいた。		
A 見通す	②	単元の学習計画に沿って、 身に付ける力を意識 しながら、本時や単元のゴールを見通している。	h' モデルを提示 することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。 j 到達基準を提示 することで、児童が目的意識や意欲を持続できるようにする。	○教科書より簡潔で、児童にとって身近な話題を基に教師がモデル文を自作した。それにより、単元のゴールで身に付ける力について児童が自ら気付いていた。 ○模範となるモデルだけでなく、改善の余地が残る例も対比的に提示したことで、構成表作りのポイントに児童が気付くことができた。	③ 	
B 自ら考える	①	自ら問いを立て、何をどのようにしたら解決できるか 考えている。	n 板書やワークシートを工夫 することで、考えを整理できるようにする。	○ウェビングを取り入れたワークシートを用いたことで、児童は意見文のテーマに関する考えを広げたり整理したりすることができた。	② 	
C 対話する	②	感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気づき、 考えを確かなものにした り、 見直 したりしている。	p 目的に応じて 対話の形態を使い分ける ことで、考えの広がりや深まりを促す。 p' 話し合う際の観点や目的を明確に示す ことで、考えの広がりや深まりを促す。	○同じテーマの児童間での対話によって、互いの考えを深めたり、よりよい表現に修正したりする姿が見られた。 ●違うテーマの児童間での対話によって、反論に関する情報量を増やしたかったが、児童間で反論を考えることは難しかった。対話で考えを深める学習活動に重きを置いた単元計画が必要であった。 ○構成表作りのポイントを踏まえているか、という観点を到達基準として示したことで、話し合いの目的が明確になり、互いのよさや修正すべき点について活発な意見交流が見られた。	②	i 児童の学習履歴や単元の特質に応じて 学習過程に軽重を付ける ことで、指導事項の習得を促す。
D 振り返る	①	できるようになったことや分かったことについて、 理由や根拠を挙げながら 、振り返っている。	j' 到達基準を基に 学習を振り返らせることで、自分の学びを実感できるようにする。	○構成表作りのポイントに関する到達基準を示したことで、ポイントの文言を根拠にしながら、できるようになったことや分かったことを振り返りとして記述する姿が見られた。 ○次時の学びにつながる課題を記述した児童（ステップ③に当たる児童）を、学級全体に紹介したことで、振り返りの書きぶりについて他の児童へ示唆を与えることができた。 ●学習を通して修正された構成表の例を学級全体に紹介し、どこがどのように改善したのかを話し合えば、学びを実感させることにつながるのではないかと考える。	② 	t 学習の前後で、 どこがどのように変わったのかを比較 させることで、変容を自覚できるようにする。
単元後			w 単元で学んだことについて、 日常生活の中で活用する場を設定 することで、学びの習熟を図る。	○市の弁論大会で発表する児童の原稿を印刷して紹介することで、児童は本単元で学習した意見文の構成の有用性について実感していた。説得力のある意見文の構成について、理解を深めることができたと考える。		